

家庭教育つうしん

令和6年9月発行第89号

発行責任者：士別市教育委員会社会教育課
課長 千葉 真奈美
(電話 26-7308)

メール：shakaikyouikuka@city.shibetsu.lg.jp
作成者：士別市家庭教育推進員 共同作成

絵本や読書、読み聞かせについて

読み聞かせには、聞き手となる子どもたちと、読み手である大人との間でコミュニケーションを取れるという大きな利点があります。

一方、読書には、読解力や知識が身につくといった学習面だけではなく、論理的な思考力や判断力、集中力など、子どもがこれから生きていくために必要な力も身につけられる効果があります。

今月は、「絵本や読書、読み聞かせ」をテーマに、家庭教育推進員からの情報をお届けします。

「本の世界は無限の世界」

読み聞かせの時間は、子どもと親が心を通わせ、特別な時間を共有できる大切な機会です。もう、お子さんが大きいと思われるご家庭でも、ぜひ声をかけてみてあげてください。ちょっと驚き、恥ずかしがるかもしれませんが嫌がる子は一人もいないはずです。

本の世界を通して、子どもたちは様々な感情を学びます。喜び、悲しみ、怒り…。これらの感情を理解することは、健やかな心の成長に繋がります。また、本には、現実にはない世界が広がっています。子どもたちは、想像力を働かせ、その世界に入り込み、創造性を育みます。本を通して、子どもたちは新しい言葉に触れ、語彙力を豊かにします。これは、学習の基礎となる大切な力です。

子どもたちが自ら進んで本を読む習慣を身につけることは、とても大切です。ぜひ、ご家族で図書館に足を運んでみてください。図書館には、たくさん本があります。子どもと一緒に図書館へ行き、好きな本を選んでみましょう。また、子どもたちがいつでも手に取れるように、自宅に小さな図書コーナーを作るのもおすすめです。

親が楽しそうに読書をしている姿を見せることも、子どもたちの読書意欲を高める一つの方法です。読書は、子どもたちの成長に欠かせないものです。(もちろん大人にも)ぜひ、ご家庭でも、子どもたちと一緒に読書の時間を作ってみてはいかがでしょうか。

(温根別小学校教頭：重森推進員)

「絵本のよろこび」

子どもに絵本を読んであげることでは一番大切なことは、読み手と聞き手が”共にいる”ということです。お母さんやお父さんの膝の上に座り、顔を寄せ合いながら、その人の声で物語が語られ、一緒に絵を見ることは、子どもにとっては何事にも変えられない至福の時。そして、その物語や絵本が楽しいものであれば、この絵本体験はいつまでも子どもの心に残り続けます。親子で言葉と歓びを共有し、互いを受け入れる。この経験は子どもに生きる力を与え、同時に絵本を読む親にも生きがい感と歓びを味わわせてくれます。

幼稚園や保育園、学校、図書館などで絵本の語りをみんなで聴くことも”共にいる”歓びです。先生の声で語られる絵本を友だちみんなと一緒に聴く楽しみは、絵本を一对一で読んでもらう楽しみとはまた違った歓びです。『おおきなかぶ』の場合など「うんとこしょ！どっこいしょ！」とみんなでかけ声を掛けたりすれば最高です。思わぬ場面で、友だちがため息をついたり、悲鳴をあげたり、手をたたいて喜んだりするのを見るのも面白く、イメージが拡がり実感が湧きます。互いに共感できることほど嬉しいことはありません。これは、教えようとしても教えられない感情体験です。”共にいる”歓びを身体いっぱい体験してきた子どもは、気持ちはいきいきと、感性豊かに育ちます。

(あさひ認定こども園所長：宮田推進員)

「絵本や読み聞かせ、読書の魅力」

絵本や読書、読み聞かせには、様々な魅力があります。

まず、絵本は子どもの想像力や創造力を豊かにします。鮮やかなイラストや簡潔なストーリーは、幼い心に強い印

象を与え、言葉の理解を助けます。

本は知識の宝庫であり、多くのことを我々に教えてくれます。また、読書によって読解力や集中力を養うことができ、本を読むことで語彙力が向上し、文章力も身につきます。

読み聞かせは親子の絆を深める貴重な時間です。親が子どもに本を読み聞かせることで、子どもは言葉のリズムや抑揚を学び、聞く力が育まれます。また、親の声で物語を聴くことで、子どもは安心し、情緒が安定します。

わがまちの図書館は、子どもが本に親しみやすい、とても素敵な場所だと思います。図書館にいる子どもたちは、みんな目をキラキラさせて本を読んでいます。皆さんも週末のひと時を、お子様と図書館で一緒に過ごしてみてはいかがでしょうか。

(中央公民館係長：工藤推進員)

「身近な環境作りから」

すっかり秋風の吹く頃となりました。さて、「読書」に集中することのできるこの季節、皆様のご自宅の本棚にはどのようなジャンルの本がありますでしょうか？

ある時、小さなお子様を持つお母さまが、「うちの子どもはいつも同じ本しか読まない。」と嘆き、大学の教授に相談している場面に遭遇したことがあります。答えは次のとおりでした。「子どもに気に入った本があることは大変素晴らしいこと。飽きるまで繰り返し読んであげましょう。」「本棚はリビングや寝室にあることが好ましく、子どもの好きな本はもちろんのこと、時には親の目から興味関心を持ってもらいたい物をさり気なく置いてあげることが良いでしょう。」とのアドバイスでした。親のいいなと思う本と子どもの喜ぶ本は違うことを踏まえながらも、本がある環境を親が用意してあげることが大切とも話されていました。ゲームやスマホアプリ、タブレットなどが身近となった昨今、本よりも刺激があるものを与えるると本に興味を示さなくなることもあるかと思います。

今一度、ご自宅の本棚に目を向けながら、お子様の想像力や落ち着いて物事に取り組む姿勢に期待をしたいものです。

(士別幼稚園園長：谷推進員)

「絵本や読書についてのおすすめ本」



「アレクサンダとぜんまいねずみ」

好学社（1975.1） レオ・レオニ 作 谷川 俊太郎 訳

発行から50年以上の年月が経っても、なお愛され続けるロングセラー絵本がたくさんあります。流行の波に埋もれることなく不変の魅力に支えられた絵本は、お父さんお母さんの懐かしい記憶と一緒に、あたたかな思いとなってお子さんに伝わります。子どもにちやほやされるオモチャのぜんまいねずみが羨ましいねずみのアレクサンダは、とかげの魔法に何を願うのでしょうか



「絵本を讀んであげよう」

「絵本で子育て」センター（2009.7） 森 ゆり子 著

絵本で子育てすることの意義や楽しさを伝える講演録。毎日1冊でも、たとえ数分でも、お子さんを膝の上に抱き、読み手の肉声で伝えて欲しい…そのふれあい、言葉かけは、絵本の中にある純粋な希望や夢、喜びだけでなく、悲しみや失意を優しさで包みながら伝え、大切な心の成長の助けとなるのです。子どもの本は子どものためだけにあるわけではなく、一緒に読むことで大人も成長できるのです。



「一冊の絵本」

径書房（2023.9） 木村 美幸 著

1冊の本が人生を変えることもある…編集者という自らの仕事を通じて多くの絵本や作者と出会い、とくに人生のどの段階でも指針となりうる「大人向けの絵本」に焦点を当て、テーマに沿った35冊＋番外編2冊を紹介しています。まずは自分が本を読むこと、読む姿勢を見せることが読書習慣づくりの第一歩です。数分から、長くても15分程度で読めるものが多い絵本を「自分のため」に手に取ってみませんか。

これらの本の他にも、関連図書を貸し出ししています。図書館へぜひお越しください♪

(市立士別図書館主任主事：安藤推進員)